

## 第1回審議会の振り返り・主なポイント（諮問の内容）

市立小・中学校の適正配置・適正規模について（諮問）

…（略）…

下記の件について、貴審議会の意見を求めます。

### 記

1、門真市学校適正配置審議会第3次答申における提言の再検討について

2、「小中一貫校」、「義務教育学校」等の考え方も含めた、今後の小・中学校のあり方について

## 第1回審議会の振り返り・主なポイント（審議会の意義）

学校が変わらないといけない時期にある。門真の学校をどのように創り変えていくかが問われている。

① 学校の老朽化  
（昭和40～50年代の建設）



児童・生徒の安全をどのように確保するか

② 少子高齢化・子どもの減少  
（児童・生徒・学級数が減っている現状）



学級数の減少を踏まえて、よりよい学校をどのように創っていくか

③ 学習指導要領の改訂など  
（求められる教育内容・授業の変化）  
（廊下と教室しかないような構造）



受け身ではなく、主体的・対話的で深い学び  
を実現できる環境をどう創っていくか  
（学校施設の機能として何が必要か）

- 財政上、全ての学校を一律に建て替えるのは困難。限られた予算で、どのように良い学校にしていくか
- それを実現する可能性として、適正配置や再編統合、また小中一貫校もあるのではないか

## 第1回審議会の振り返り・主なポイント（審議会の役割）

この審議会の役割を整理。

① 第3次答申の再検討の場

② 今後、門真市のめざす教育の姿を実現するために、学校をどう創っていくのか、どう考えるかを検討する場

「小規模校は悪」という議論があるがそうではない。  
「規模」だけの議論ではなく、「財政面」「魅力的な学校施設づくり」「教育の中身」「地域との関係」「小中一貫教育」も含めたいろんな見方で考えていくことが必要

③ 門真市魅力ある教育づくり審議会が出された答申については「尊重」しつつ、我々も良い学校づくりをめざすために、さらに議論することとする。

## 第1回審議会の振り返り・主なポイント（小中一貫教育）

小中一貫は、あくまで手法である。

小中一貫教育は、門真が「こういう教育をやりたい」があつてのこと制度に合わせていくということではない  
門真市は門真市の小中一貫の在り方を考えていくことが重要

門真市で進めてきた1中2小で小中一貫教育を進めてきたことの評価  
（どんな成果があつて、どんな課題が残されているのか）

門真ローカルのありようやこれまでの議論の経緯を示してほしい。

次回以降、具体的な議論を進める。

「次に何をやる」よりも「どの回に、どのような議論をして決めていくか」といった「全体のフロー」を作成してほしい。